

日時：R5、3月19日

場所：きりしま総合発達支援センター（zoom）

CAT-Kit 指導法基礎（1）セミナー

講師：服巻 智子 先生（TEACCH プログラム公認上級コンサルタント）

1、ASD の感情の捉え方

日本語には「腹が立つ」「血がのぼる」「肩を落とす」など感情を表す言葉で、身体が入っている事が多い。しかし ASD 児は、頭で感情が分かっているにもかかわらず身体の反応などに注目しづらかったり身体と感情の繋がりを感取りづらかったりする事がある。

2、CAT-Kit 使用の前提（感情教育の前に必ず必要な事）

CAT-Kit は、認知行動療法を ASD のある子どもと大人に活用する場面の、ツールの寄せ集めにすぎない。

使用する前提として、「怒り」は身を守ろうとする当たり前の事を認める事。どの部分で怒りを感じるかを知る為にポイントをアセスメントする事が必要。

またナウシカのような対応（キツネリスに噛まれた時のナウシカの対抗）+ユーモアがある事が前提。

本人からの信用を勝ち取るように支援者は、感情の調整を一緒に行ったり・共感したりする肯定される経験を作る必要がある。怒りの表現が普通じゃない時には、適切に教える関係を作る。（対等関係）

3、ASD の人たちの感情教育

- ・適応して見えている事が、問題が何もないということではない。
- ・生活年齢と社会性の発達は同じレベルではない。
- ・いつまでも成長し続けることを支援する必要がある。

4、CAT-Kit

- ・7歳以上に適用化（発達年齢）
- ・指導者は講習を受け、フォローアップを受ける事。
- ・指導者は、自閉症と視覚支援の重要性を理解し、構造化（TEACCH プログラム）を使える事
- ・ソーシャルストーリーズとコミック会話が使える事

5、CAT-Kit の教材（一部）

- ・表情シール ・温度計 ・
- ・からだと感情 ・サークル（人間関係の輪）
- ・1日の流れ ・1週間の流れ ・1年の流れ

